

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

栃木県 野木町

自治体名： 栃木県野木町

担当課名： 教育委員会生涯学習課

電話番号： 0280-57-4187

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積30.27 km ²
人口	24,275 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	562 人
部活動数	35 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	制定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、野木町の2つの中学校の部活動総数は、運動部は31部、文化部は4部である。

近年生徒数は減少し、同時に教職員数も減少している。しかし、部活動数は現状を維持しており、部員不足のため単独でチームを編成できない部も存在する。また、競技経験のない教職員が指導せざるを得ない状況や休日を含めた指導を求めたりするなど教職員にとって大きな業務負担となっている。

そこで、本町では、「令和7年度までに町立中学校の休日の運動部活動を地域クラブに2つ以上、また、平日活動を含めた地域クラブ設立を2つ以上目指します。」（短期目標）

また、「令和10年度までに町立中学校の休日の運動・文化部活動の全てを地域クラブに移行し平日活動を含めた地域クラブの設立を3つ以上目指します。」（長期目標）という活動目標を設定した。

課題として、地域移行の受け皿としての運営団体の強化や指導者の確保があげられる。

具体的な課題は、

- ①受け皿としての運営実施主体
 - ②運営団体（総合型地域スポーツクラブ）
 - ③指導者の人材の確保
- の3点である。

野木町の部活動の現状や課題

（1）生徒数 町立中学校の全生徒数の推移

野木町の中学校の部活動を取り巻く状況は近年大きく変化してきています。本町の人口減少とともに、生徒数も減少傾向にあります。

中学校	令和3年度	令和6年度	令和12年度
野木中学校	340	292	282
野木第二中学校	309	270	262
合 計	649	562	544

野木町の中学校の部活動を取り巻く状況は近年大きく変化してきています。本町の人口減少とともに、生徒数も減少傾向にあります。

（2）令和6年度の野木町立中学校の部活動数（運動部）

中学校	男子の部活	女子の部活	計
野木中学校	10	9	19
野木第二中学校	6	6	12

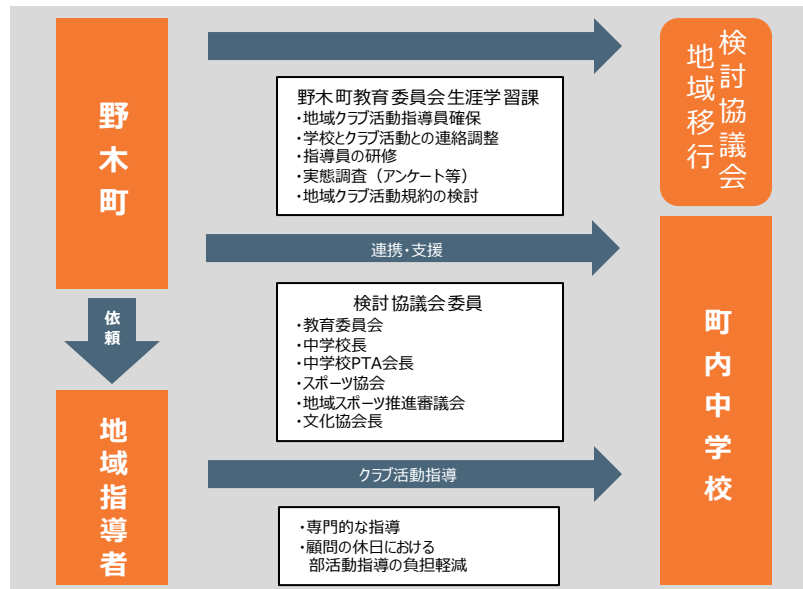
部活動加入率は約87%ですが、運動部の団体競技では、部員不足のため単独でチームを編成することができない部もあります。部員の少ない部活動同士が合同編成チームで大会等に出場や部員不足などにより募集停止となっていく部活動も考えられ、今後、減少傾向にあると考えられます。また、自分の通う学校に、希望する部活動がないという状況があります。

（部活動未加入率は、令和6年度は13%）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・ 休日の部活動の地域クラブ活動移行の計画立案・実施
- ・ 野木学校部活動の地域移行検討協議会事務局（開催・運営）
- ・ 地域クラブ活動運営団体・指導員の確保
- ・ クラブ活動指導員の研修
- ・ 学校との連携及び連絡調整（施設・生徒指導・保護者対応）
- ・ クラブ活動指導員バンクの設営

◎首長部局

- ・ 学校部活動の地域移行の進捗状況の確認と議会への報告

年間の事業スケジュール

令和6年4月	実証事業部活動検討 （ソフトテニス・水泳） ハンドボール部の地域移行 設立に向けた取り組み
令和6年6月	町内小中学校訪問・研修
令和6年7月	野木町学校部活動の 地域移行協議会
令和6年9月	野木町学校部活動の 地域移行協議会
令和6年10月	ハンドボールクラブ 活動開始
令和6年11月	野木町学校部活動移行説明会
令和7年1月	ハンドボールクラブ実証事業の 実践・検証
令和7年2月	実証事業部活動検討部の 打ち合わせ会の実施 （ソフトテニス・剣道）
令和7年2月	実証事業検証・報告

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（2部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	6人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に （新）を付ける	実施回数	実施 時間帯	参加者 （学年別）	実施 期間	活動場所	指導 者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ハンドボール クラブ	市町村 運営型	ハンドボール	月 20回／ 週 5回	平日 17:00~18:30 休日 09:00~12:00	男子13人 1年生：8人 2年生：5人 女子9人 1年生：5人 2年生：4人	R6.9~	野木 中学校 新体育館	2人	6人 （内、兼務0人）	なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

特になし。

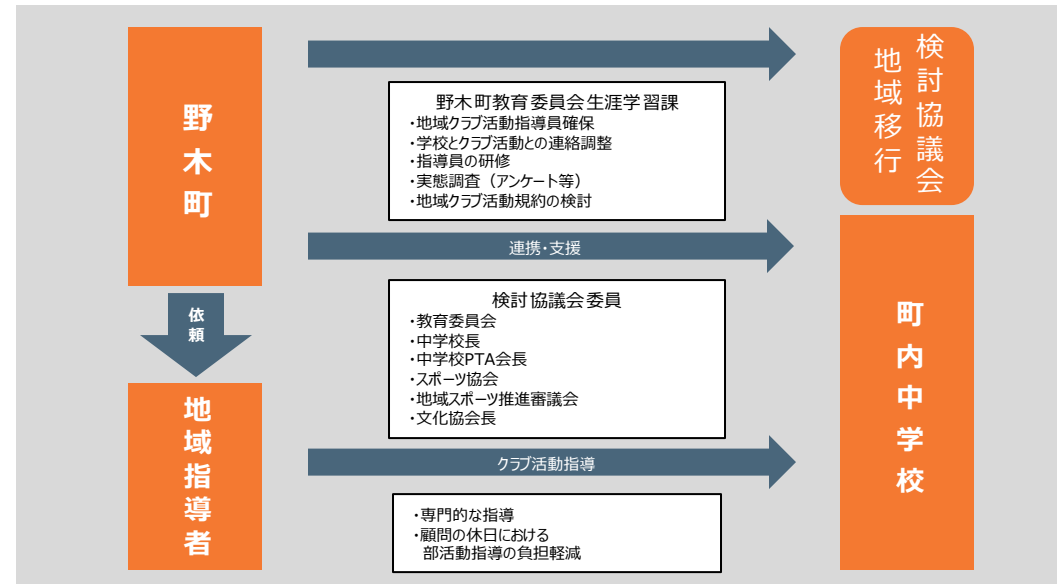
2.実証内容と成果

主な取組例

ハンドボールクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ハンドボール
運営団体名	市町村運営型
期間と日数	令和6年10月1日～3月31日 月20回程度
指導者の主な属性	野木町ハンドボール協会役員 元高等学校教諭
活動場所	野木中学校新体育館
主な移動手段	自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,200円/年 (64歳までは1,850円、65歳以上は1,200円)

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者 1名

役割：活動における管理者として学校、保護者との連携を行う

●指導者 2名

役割：活動における主任者として生徒への指導を行う

●運営補助者 4名

役割：活動において主任指導者の補助として指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- 参加者管理、参加者・指導者への連絡、会場の確保・調整、にICTを活用。
- 小中学校の教職員対象に理解促進のため説明会を実施。
- 今年度2回野木町学校部活動の地域移行協議会を実施。

取組の成果

- ・ 町が事務局となり地域とのかかわりが強い生涯学習課に雇用された職員がコーディネーターを兼ねることで、学校やスポーツ協会諸団体の担当者との連絡調整が円滑に行われた。また、メールやホームページを活用して連絡体制等が整備が確立した。
- ・ ホームページを活用したことで、指導者の人材確保ができた。
- ・ 運営団体と相談体制が構築され、運営していく上で必要な準備が整い、保護者を含めた運営体制構築がスムーズに整った。
- ・ 検討協議会を実施し、それまでの取り組みの確認と今後の進め方の確認ができた。
- ・ 町内の7つの小中学校の教職員対象に周知の場を持った結果、活発な意見交換が行われた。
- ・ 今年度は、7月と9月に野木町学校部活動検討委員会を実施し、様々な関係者から今までの野木町の部活動地域移行の現状と今後の実施に向けて様々なご意見や助言をいただき、町としての方向性が決定することができた。その結果、11月に町の文化会館にて各学校の保護者や関係者総数200名を超える説明会を実施した。栃木県教育委員会担当者2名をお招きし、国や県の動向そして、町の取り組みや今後の方針を説明した結果、多数の質問が出るなど活発な実施となり、理解が深まった。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

- ・ 1か月ごとにクラブを視察し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・ 協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努める
- ・ 学校、参加者、指導者への連絡調整及び各競技団体への協力依頼

今後の課題と対応方針

事務局とコーディネーターを兼ねているため、直接諸団体や学校等と連絡調整は比較的スムーズにできるが、協議会で、報告や提案などに時間を取られ、委員の中には、現状がわからず基本的な質問も見られた。今後円滑に議論が進みより良い地域移行の実施につなげられるよう取り組み方法を構築していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	登録者属性	種目	資格有無
- 人材の発掘については、県の人材バンクの活用、または、町独自の人材バンクを設置し、これらを活用したうえで、指導者を確保する。 - 町のホームページで人材を確保するために募集を行った。 - 指導者研修会の実施。	30名 人材バンクの年齢構成 10代 0名 20代 0名 30代 0名 40代 7名 50代 7名 60代 11名 70代以上 5名	指導者の過半数は、60代以上の年齢で、職業も第一線を退いた方が多い。 人材バンクは、町のホームページ等で募集した方。元気の出るスポーツクラブに登録した方である。	サッカー、剣道、バスケットボール、ハンドボール、柔道、軽スポーツ、ピラティス、ヨガピラティス、ヨーガ、太極拳、ソフトバレーボール、陸上競技である。	日本サッカー協会、日本スポーツ協会日本ミニバスケットボール協会、日本ハンドボール協会、全日本柔道連盟、生涯学習開発財団、FTPJAPAN、日本エアロビック連盟等

取組の成果

- 町の指導者バンクに登録した人数は、30名いる。多くのものは、町のスポーツ協会に所属する指導者と従来からある元気の出るスポーツクラブのぎに所属登録している指導者の資格を持った方である。また、町のホームページを見て指導者としてやってみたいという申し出があり、指導者の確保につながった。
- 地域クラブスタートに当たって指導者への研修について、事務局が講師を務め資料を独自に作成するなど工夫し実施した。
- 地域クラブのさらなる向上を目指し、保護者・生徒へのアンケートを実施し、クラブ運営の改善につなげる取り組みを実施した。また、指導者から実施した取り組みから成果と課題を聞き取り、また、保護者・生徒のアンケートの結果より今後の取り組みにつなげるように努めた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【実施クラブへの研修】

- 対象：ハンドボールクラブ
- 目的：クラブの効果的な取り組みとなるよう、また、適切な運営が図れるよう研修を実施することで、子どもたちの活動環境を充実させ期待する効果が得られるよう環境整備を図る。
- 工夫した点：町独自の資料を作成し、理解を深めた。

【野木町スポーツ協会理事対象研修】

- 対象：野木町スポーツ協会理事
- 目的：指導者確保に向けて、新たなクラブ化実施に向けた理解促進
- 工夫した点：根本的に地域移行を理解できるよう、繰り返し丁寧な説明をし、各協会の状況の把握・調査を依頼した。

指導者研修の参加実績

- 開催日：10月10日、1月8日
- 開催回数：2回
- 参加人数：ハンドボール3人、理事28人

ハンドボールクラブ指導者全員に共通理解していただくよう依頼した。

また、野木町スポーツ協会理事にリーダーシップをとっていただくよう依頼した。

受講者の声

○ハンドボールクラブ

指導にあたって、中体連の規約を確認できてよかった。地域クラブの参加については、生徒や保護者のみならず中体連関係者にとっても少しでも早く理解をいただけるような組織や運営を心掛けていきたいと感じた。

○野木町スポーツ協会

11月に実施された、野木町立中学校部活動地域移行説明会と今回の研修で、今まで分からなかった点や勘違いしていた点がわかり良かった。また、自分でプレーはするが指導ができるかどうか疑問だという声もある。今後協力できないことがないか協会として総会時など皆で何ができるか検討していきたいと思った。休日なら可能かもしれない。

今後の課題と対応方針

地域クラブ化に向けては、どの協会も各自でスポーツに取り組むことはできるが、指導となると難しいという声が多く聞かれた。県の中でも小さな町なので指導者資格を持っている人は限られてくるので、指導者を探すことが困難であることが再確認できた。しかしながら地域の子供は地域で育てるということを強調することで、何とか協力できたらと前向きな声も聞かれた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

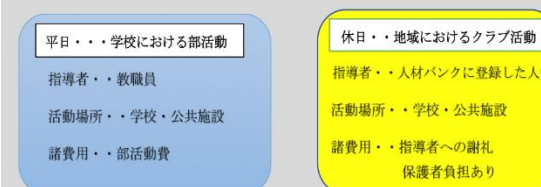
○学校と連携して進めていくために、小中学校校長会において、本町の取り組みや今後の取り組みを町内小中学校全校において説明会を実施することに対して協力をお願いし、小中学校の教職員に向けて説明会を実施した。

取組の成果

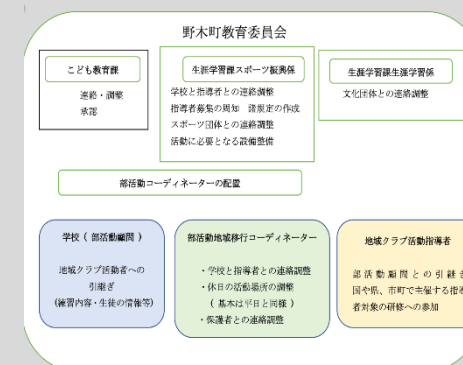
○小中学校校長会において、学校の協力を求めることで、児童・生徒や保護者と直接接する教職員全員が共通理解のもとに対応できるよう周知する機会を得た。

○各小中学校の教職員を対象に、説明会を実施した結果、各校とも活発に意見交換が出来た。また、移行に当たっては、町の今後の方向性、移行する部活動の決定について、「地域クラブ活動指導者の確保について」、「移行のスケジュールについて」の理解促進のための資料を配布し、共通認識のもと共通理解が図れた。中には、うわさが先行しどう対応したらよいか困ったという声もあり、今後の地域移行の環境づくりにつながる機会となった。

【 令和6年度における移行のイメージ 】



【 令和6年度における移行のイメージ 】



小中学校訪問・説明実績

- ・日数 7日
- ・参加者数 207人
- ・実施時期 6月、7月

小中学校の教職員の声

先生方から積極的な質問があり、的確に回答いただいたり説明をいただいたので、今後保護者の方から質問された場合でも、自信をもって先生方が回答できるのでありがたかった。

今後の課題と対応方針

○各小中学校の教職員を対象にした、説明会の実施は、直接目の前の児童・生徒にかかわる問題であり、中学校の教職員においては、直接働き方改革につながることで、学校現場が本気になって係ることができるように今後も連携強化を図る必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○1週間の練習日は、平日4日、休日1日計5日の地域クラブ活動として実施。昨年3月23日に第1回目の野木中・野木第二中学校ハンドボール部の保護者対象に保護者会を実施した。ハンドボールクラブ設立に向けたアンケートの実施を経て7月7日に第2回目の保護者会を実施した。8月に設立総会を実施した。野木町初の地域移行クラブ活動として10月より活動をスタートした。

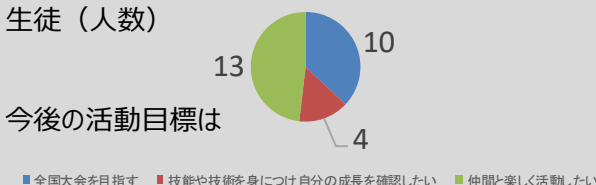
○持続可能な活動になるための現状確認と改善につなげるためのアンケートの実施。

活動の詳細

参加人数	22人	指導者数	2人
属性	野木町ハンドボール協会役員、野木町ハンドボール協会指導員		
具体的な内容	・地域クラブ活動実施に向けた2回の保護者会の実施(3月23日、7月7日) ・地域クラブ活動実施に向けた設立総会の実施(8月) ・10月より野木町初の地域移行クラブ活動として活動開始 ・持続可能にするためのアンケートの実施		
生徒の声	● ループシュートの技術など指導により以前より技能が向上した。 ● 練習や指導内容が変わり技能の向上が図られた。 ● 専門的で丁寧な指導が受けられて良かった。 ● チームワークがよかった。また、勝敗にこだわらずに楽しめた。		
関係者の声	● 人数が増えたことで、練習内容はチーム練習が増えた。 ● 特に男子の意欲向上が見られ、技術の習得が多くみられた。 ● スキルだけでなく意欲(向上心)が増した。特に内面の向上が著しい。 ● 2中学校の学校行事の関係で全体練習ができない期間があり、チーム力の向上のためにも学校行事を合わせていただけるとありがたい。		
運営経費	● 指導者謝金 2名		

生徒(人数)

今後の活動目標は



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○地域クラブ活動の実施までの手順の確立

ハンドボールの地域移行クラブ活動までの経緯から、スムーズに学校部活動から地域クラブ活動へ移行するためには、

- ①受け入れ態勢が整った移行先(受け入れ先)を確認。
- ②学校への連絡と学校としての受け入れの可否の確認。
- ③地域移行クラブ実施に向けての保護者へのアンケートの実施。
- ④保護者説明会の実施。

以上の流れを経て、地域移行クラブの設置が進んでいくことが確認され、確立できた。

【部活動地域移行に係るアンケート】

※ 移行内容につきましては、生徒・保護者等のご意見をお聞かせください。ご意見を参考にし、生徒たちにとって最良なものを決定していきます。

※ 次の問いにお答えください。(○及びご意見をお書きください。)

学校部活動を地域のクラブ、競技団体などに移行する改革のことを部活動の地域移行(地域クラブ活動)といいます。地域の受け入れ可能な団体へ移行を進めていく予定です。

1. 部活動が「地域クラブ活動」に移行した場合、他の学校の生徒と一緒に活動することとなります。また、より専門的な知識や技能を学べることとなります。また、子どもの活動環境(平日放課後の活動・活動時間)が変わることや保護者の経済的な負担が増える等デメリットも出てきます。地域クラブ活動に参加しますか？(1つ選択)

- (1) 参加する ()
(2) まだ決めていない ()
(3) 参加しない(転部する・他の活動・未定) ()

2. 地域クラブ活動の指導についてどんなことを期待していますか。(複数選択可)

- (1) 体力・技術の向上 ()
(2) チームワーク・協調性等 ()
(3) 大会等での好成績 ()
(4) 運動習慣の形成 ()
(5) 楽しく活動する ()
(6) 自信をつける ()
(7) 社会性を身につける ()
(8) 自立心をつける ()

3. 中学校において、教職員は多岐にわたる教育活動に従事しており、また、生徒指導等の対応も求められております。一方で教職員数は、減少している状況から、ハンドボール部の地域移行を進めております。部活動の地域クラブ活動への移行時期について、いつからがよいですか？(1つ選択)

- (1) 令和7年4月から ()
(2) 令和6年9月から ()
(3) どちらでもよい ()
(4) その他 ()

4. 地域クラブ活動では、小中の指導者の連携が重要と言われています。指導者の指導体制についてお聞かせください。

(複数選択)

- (1) 小学校の時の指導者にも指導してほしい。 ()
(2) メインの指導者に加えて補助的に指導できる人を入れてほしい。 ()
(3) 専門性を持った指導者ならだれでもよい。 ()
(4) その他。 ()

5. 地域移行の段階的な形として、野木中・野木第二中学校の合同を(町で一つにまとめる)にして、土・日を地域移行にする。方法もあります。このことについてお考えをお聞かせください。

(1) 2つの学校とも9月以降も部活動を存続し、新人戦は、合同チームとして参加する。(野木中・野木第二中合同チーム：平日はそれぞれで練習する。)(平日は顧問の先生と部活動指導員が指導する。)()

(2) 新人より人数の不足によりチームの組み立てなくなる野木第二中のことを考え、野木第二中は廃部とし、野木中と合同チームとして活動する。(拠点校部活動：平日も野木中にて練習する(指導者は先生と部活動指導員)()

- (3) どちらでもよい ()
(4) その他 ()

自由意見

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

野木町教育委員会生涯学習課
スポーツ振興係
担当：松井、松村、菊地、赤坂
Tel : 57-4187
Fax : 57-4914

今後の課題と対応方針

学校部活動の地域移行クラブ化については、周知方法や的確で正確な情報が多くの人に伝達していないと的確でないわさなどの情報が広まり、不安をあおってしまうということが今年度のハンドボールクラブを設置することで、明らかになってきた。町当局と学校現場が協力して、正しい情報が伝わらないと協力していただけないことが分かったので、今年度を実施してきた

ように直接児童・生徒がいる学校現場に方針を伝え、保護者の不安や質問事項など出た場合に教職員が皆同じ回答ができるようにした。また、異動等で毎年変わる教職員に共通理解をしていただく必要がある。今後も丁寧に説明していきたい。また、保護者を含め一般の方々にも正しく情報を知っていただけるようにHP等を利用し周知していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

本町の中学校は2校である。今年度地域移行できた部活動は、ハンドボールのみである。活動場所は、野木中学校の新体育館を利用している。それまで新体育館を利用していた部はハンドボール部のみであったことと、

2年前に実施されたとちぎ国体で使用した体育館であり、立派な会場を独占できる状況である。また、野木第二中の生徒は日ごろグラウンドでの練習がほとんどであったので、とても良い環境でできることを喜んでいる。

取組の成果

参加した中学生に聞き取りをしたところ、野木第二中の生徒は、きれいで大きな体育館を常に使えるのでとても良い。ありがたいことと捉えている。また、日ごろグラウンドでの練習であったので、汚れることもなく思い切り練習に打ち込めるため、練習の成果が上がるのが速いと思うと答えている。また、2つの中学校の生徒が集まることで、人数も増え練習内容も充実してきている。さらに、より専門的な技術指導もあり、個人としてもチームとしてもレベルアップしていると感じている。



今後の課題と対応方針

平日は、放課後の練習や夜間の練習になるが、野木第二中の生徒は、野木中学校まで自転車での移動もしくは、家から保護者の車での移動があり、負担は避けられないことが課題としてあげられる。交通事故

防止など安全面の配慮が必要であることと、保護者の送り迎えなど家庭の負担が増えたことが一番の課題である。練習終了後の安全確認ができるような仕組みの構築が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

○野木町地域クラブ活動に関する認定要項の作成

部活動の受け皿として、野木町地域クラブに認定し、支援することにより、生涯スポーツ・生涯学習社会の実現を図ることを目的として認定要綱を作成し実施した。

取組の成果

地域クラブ活動に関する認定要綱を作成することで、11の認定要件を設定した。その中の、①活動計画書、②地域クラブ認定要件確認書、③規則または会則、④会員名簿(総会資料)、⑤前各号に掲げるものの他、教育委員会が特に必要と認める書類の以上5つの申請提出をもって、野木町地域クラブとして認定し、適正な運営と支援を可能にした。結果としてクラブ運営の基盤を確立することができた。

		1月分	OWLS活動報告
日付	曜日	活動時間	活動練習内容
1	水	休み	年賀
2	木	休み	年賀
3	金	休み	年賀
4	土	休み	年賀
5	日	9:00～12:00	野木町駅伝試走(コース全域)
6	月	9:00～12:00	①基礎ストレッチ ②DF練習(フットワーク) ③シュート練習 ④2対2攻防
7	火	9:00～12:00	①基礎ストレッチ ②DF練習(フットワーク) ③サイドシュート練習、2対2攻防
8	水	休み	
9	木	19:00～21:00	①基礎ストレッチ ②ポジションシュート練習 ③2対2攻防 ④速攻1対1練習

指導者の属性や配置の工夫

○指導者の属性

野木町スポーツ協会ハンドボール協会役員、協会指導員

○配置の工夫

設立総会にて、会長はじめ会計・監事・事務員・指導員11名の中に適切な運営を図るために保護者を5名役員として迎えた。

その他持続可能な組織にするための工夫

○SNSを利用した、教育委員会事務局との連携の確立

○設立総会資料の中身

- ・指導方針・会員名簿の作成
- ・会則・役員名簿
- ・事業計画
- ・収支予算書案
- ・収支決算書案

今後の課題と対応方針

役員の中に保護者を入れたことで、運営が協会スタッフのみにならず保護者に協力を得ることで透明性を確保し、連携したクラブ経営ができた。一方で、指導者と保護者間の線引きが難しいという課題も出てきた。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○国や県の休日における部活動を段階的に地域に移行するという方針に従い、野木町として令和5年度から令和7年度までの3年間で休日の部活動を実施可能な部活動から地域に移行することを進めてきた。

○令和4年度には、地域移行に係るアンケートを実施することから始め、令和5年度は地域移行検討協議会を設置し、2回の協議会を開催した。また、受け入れ団体の一つとして、町のスポーツ協会理事会を開催し、受け入れ団体に協力を要請した。その結果、ハンドボール協会より指導者を含め、実施可能であると回答があり、複数の打ち合わせ会を経て保護者説明会を年度内に実施した。令和6年度になり、保護者へのアンケートを実施し、野木町初の地域移行クラブ活動の第1号として10月より平日を含めて活動を始めた。

○その他として、①学校現場への周知のための説明会の実施 ②町のHPや広報誌への指導員の募集 ③クラブの認定制度の設置 ④指導者バンクの設置 ⑤実施クラブを含め指導者研修の実施 ⑥町として地域移行説明会の実施など進めることができた。

●成果の評価

令和4年度に実施した教職員・保護者・児童生徒へのアンケートより、地域移行する上で状況を把握したうえで今年度の実行可能な取り組みをしてきた。

- ①ハンドボール保護者会を2回実施し、地域移行実施までの流れが確立した。
 - ②保護者などにうわさが先行していたので、小中学校の現場の教職員に対し現状と今後の方針を説明会を実施し周知できた。
 - ③町の指導者バンクを設置、HPや広報誌を含め指導者の募集が拡大した。
 - ④町の支援を含め勝利至上主義でない持続可能な運営ができる認定制度を確立した。
 - ⑤地域移行実施クラブへの研修会の実施及び各組織団体対象の研修会を実施した。
 - ⑥保護者を含め町関係団体向けの説明会を実施した。
- それぞれの取り組みを実施して、町と地域で連携して一歩ずつ進めていきたい。

●今後に向けて

野木町は栃木県の中で一番小さな町である。スポーツを指導する人数が限られているので、指導者を確保・発掘することが困難である。しかし、保護者を含めた地域住民全体として地域の子供は地域で育てる。という地域の誰もが当事者意識をもって町づくりの観点から取り組んでいけるよう多くの人に関心持っていただけるよう勧めていく必要があると考える。

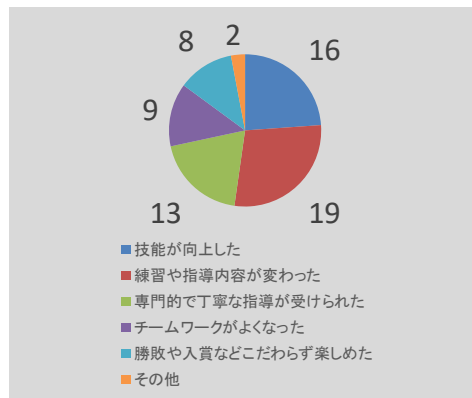
また、スポーツ協会理事会の研修会において、現時点で各協会に実態調査をお願いしている。その結果をもとに今後は、可能な限り休日の部活動移行を進めていきたい。

2.実証内容と成果②

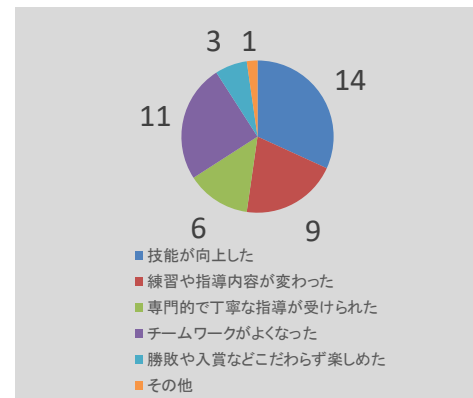
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果(人数)

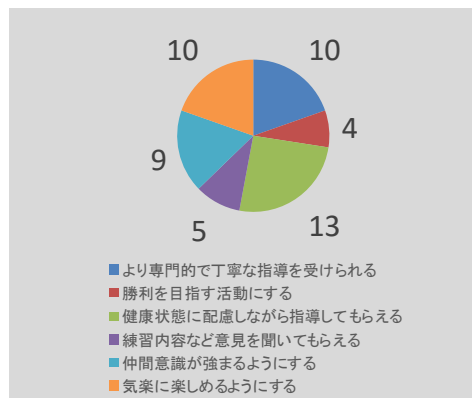
Q.クラブ活動になり、活動を通してよかったと思うことは何ですか（生徒）



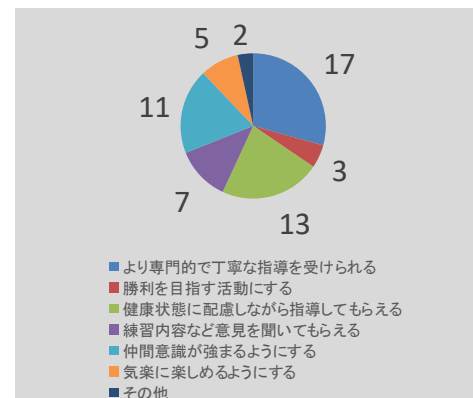
Q.クラブ活動になり、活動を通してよかったと思うことは、何ですか（保護者）



Q.今後、より満足する活動にするためにはどんなことが必要ですか（生徒）



Q.今後、より満足する活動にするためにはどんなことが必要ですか（保護者）



●参加者の声

中学1年生

他の中学校の人と一緒に練習することで、友達になれた。また、楽しく活動ができるようになりよかった。

中学2年生

以前出来なかったことが丁寧な指導のおかげでできるようになったので、とても良かったし、意欲が増してきた。

保護者

指導者の皆様には忙しい中熱心にご指導いただきありがとうございます。人数が増えたことでよりチーム練習が多くできるようになり、生徒たちも意欲が向上し、同時に技能の向上がみられたのはよかった。

指導者(聞き取り調査より)

中学校からハンドボールを始めた生徒もやる気が増し、意欲の向上とともに技能の向上が速く指導していて面白い。チームの人数が増えたことで個人練習よりチーム練習が増え、生徒の意欲が向上し技能の向上が顕著である。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【練習の様子】



【練習の様子】



【大会の様子】



【ミーティングの様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討開始
アンケートの実施

小中学校教職員
小6 中1・中2の
保護者・児童生徒

令和5年

協議会の設置
協議会の実施
指導者の選定
保護者会の実施

生徒・保護者への
説明

令和6年

地域クラブ活動の
開始

令和7年

地域クラブ活動の
拡大

学校部活動の地域移行に係る アンケートの実施

●対象者

小中学校教職員、小6・中1・中2
の保護者及び児童生徒

●実施にあたって生じた課題

教職員の67%は部活動の指導をできればしきないと考えている。また、
地域に移行した場合指導者としてあ
たりたいかには67%が指導に当たる
気持ちはないと回答している。従って、
地域の指導者の確保が課題である。

●実施内容、工夫した点 等

アンケートの結果をホームページで公
表し、多くの方の目に触れることで、
関心を持っていただけるようにした。

野木町「中学校地域移行検討 協議会の設置」及び実施

●実施内容

第1回 7月4日

- ・ 部活動地域移行の方向性
休日(土日祝)を可能な部のみ
地域に移行する。等

第2回 8月23日

- ・ 部活動指導員関係
- ・ 地域クラブ活動関係

●実施にあたって生じた課題

周知による理解と協力の必要性

●実施内容、工夫した点 等

各委員の今後につなげるようそれぞ
れの立場から意見を吸い上げるよう
配慮した。

●ハンドボールクラブ

令和6年10月から活動開始

●経過

- ・ 7月の保護者会、8月の設立総会を経て地域クラブ第1号
として発足し、10月より活動開始。
- ・ 週5日、月20日間の実施。

●実施にあたって生じた課題

- ・ 2名の指導員と保護者を含む役員を配置し活動を始めた
が、練習・試合・大会時の対応や保護者と指導者間で
の連絡・調整に課題が見られた。

●実施内容、工夫した点 等

- ・ 指導計画等SNSを利用し速やかに連携できた。練習計
画の作成及び実績報告等提出により、スムーズな活動に
つながった。また、指導者研修をスタート時に町独自に実
施した。また、保護者・生徒にアンケートを実施し現状把
握でき、改善につなげた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

(1) 休日の部活動の地域移行スケジュール

